

## V 英語

1. A, a
2. B, b
3. C, c
4. D, d
5. E, e
6. F, f
7. G, g
8. H, h
9. I, i
10. J, j
11. K, k
12. L, l
13. M, m
14. N, n
15. O, o

16. P, p

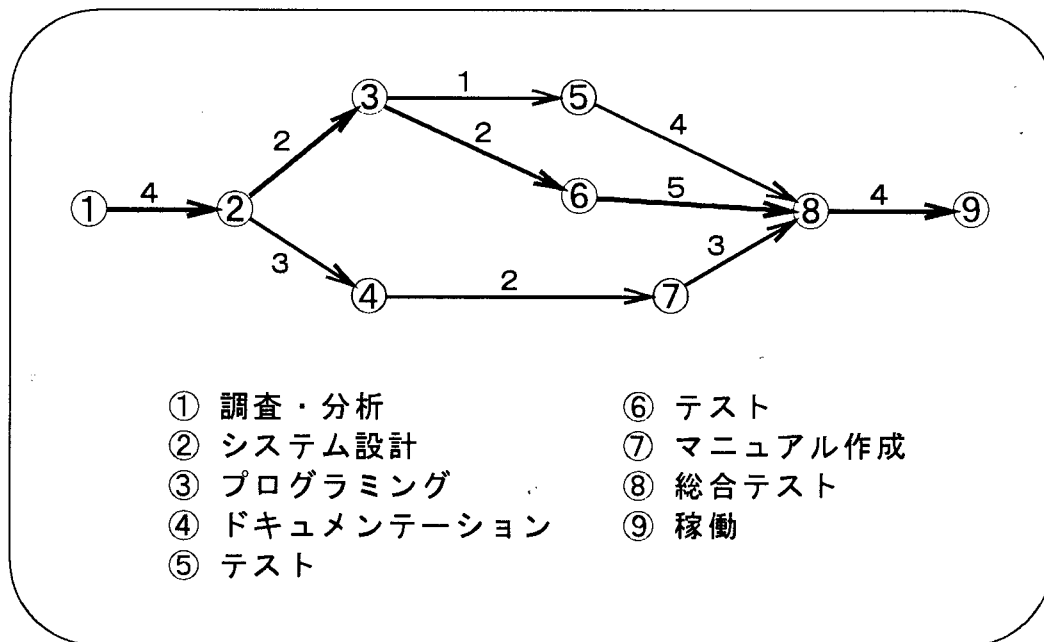
PERT ( Program Evaluation and Review Technique ) パート :

[システム設計] [ソフトウェア開発技法], レベル2

システム開発や大規模な工事の計画などで用いられる計画手法であり、PERT図は各開発工程間の大まかな作業の流れを示した日程計画表である。

PERT図は、開発作業の順序や相互関係を矢印(アロー)で表したものであり、イベントと呼ばれる丸の中に一連の番号を記し、この番号に対応した作業内容は別の場所に記される(図VP-1)。アロー上に設定された数字は作業(アクティビティ)とよばれ、その作業に要する時間は、日数や相対的な期間で示される。時間的に余裕のないイベントを結んだ経路はクリティカルパスとよばれ、このパス上にあるイベントの遅れは、開発工程全体の遅れにつながるこことなる。したがって、このパスの重点的に管理することにより、システム開発がスムーズに行えるようになる。PERTを用いた工程管理は、ネットワーク形態を採用していることから、作業開始後の進行管理や統制が弾力的に行われ、また、開発工程全体の関連がシステムの的に考えられていることから、ある作業の遅れに対してのクリティカルパスの変化はもとより、スケジュールを組み直すときの統制ポイントなどが明確となる。

PERTによる開発作業では、まず、システム開発に必要な作業を明確にし、その順序や必要となる期間や時間をネットワーク形態で表現した後、ノードタイムの計算及びトータルフロートの計算を経て、クリティカルパスを見つけるという方法がとられる。なお、PERT図は、システム開発の全体工程を示す大日程計画表に対応する。



図VP-1 PERT図

<ファイル名: P 0001.HTM >

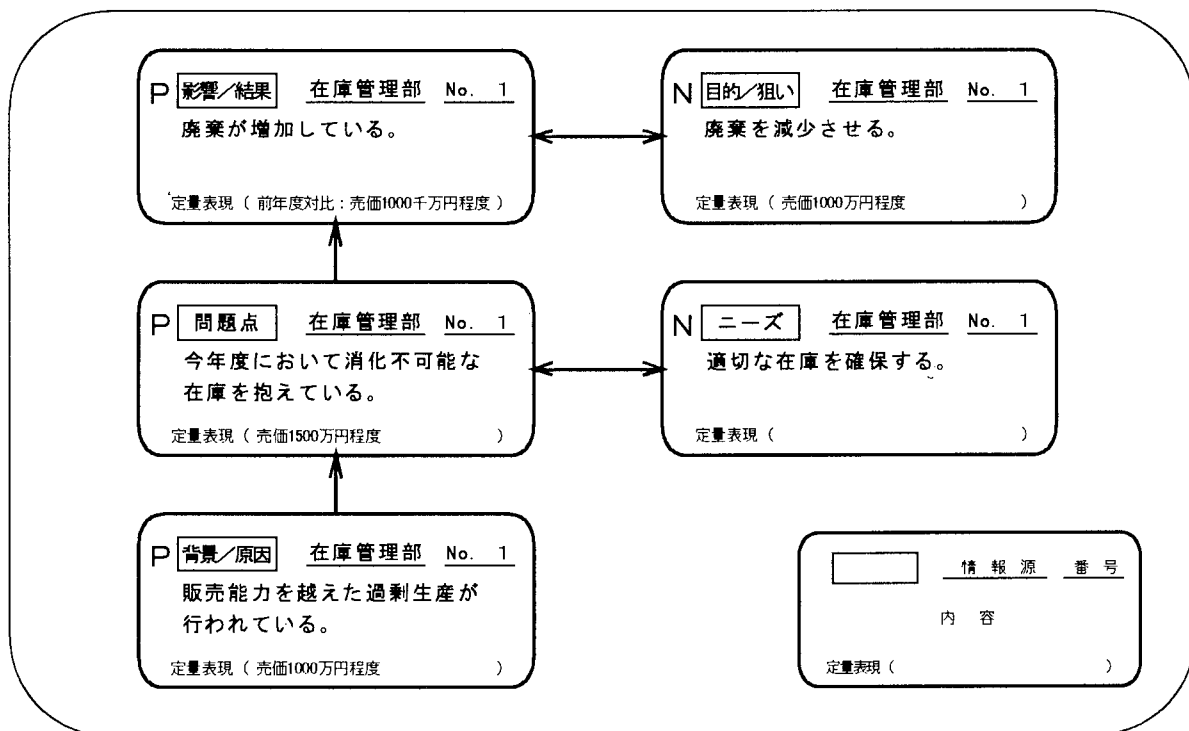
PN card ( Problems-Needs card ) ピーエヌカード :

[システム設計] [ソフトウェア開発技法] , レベル2

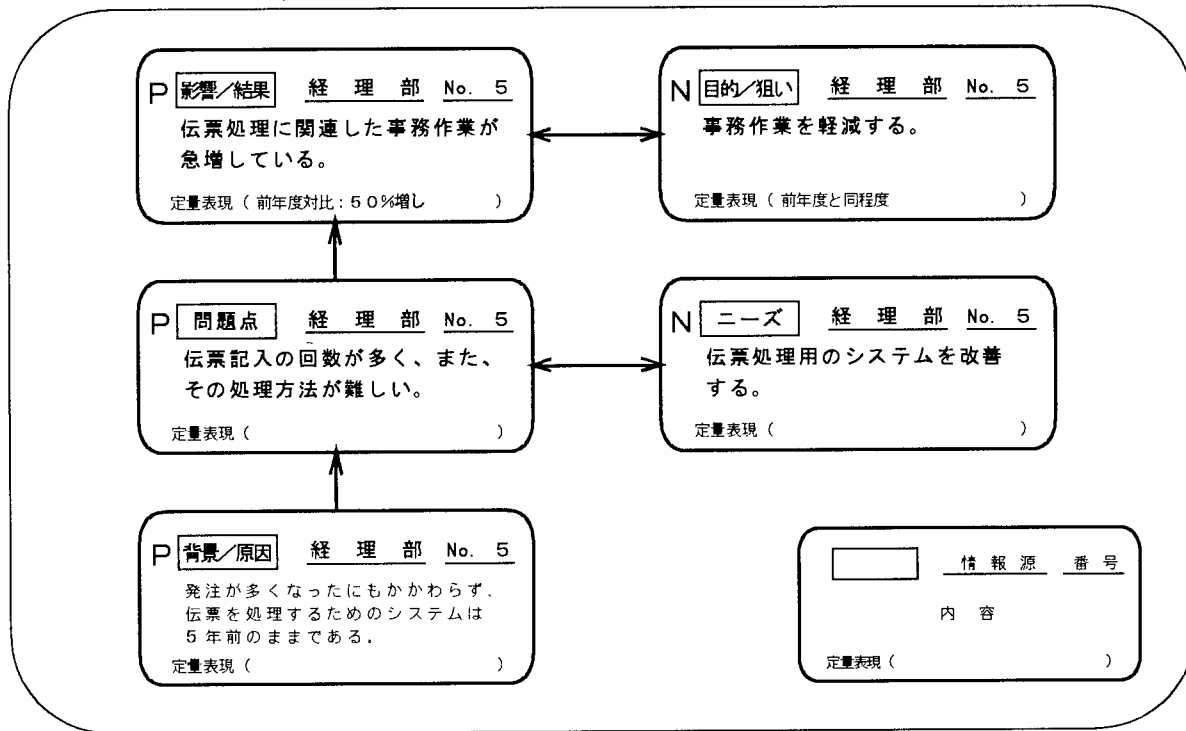
システム開発における調査・分析の工程で用いるカード。

システム開発を行う場合、現行のシステムにどのような問題が存在し、また、その問題が他にどのような影響を及ぼしているのかを、開発担当者だけで調べ分析することは不可能である。よって、直接、その業務の担当者から意見を聞くことが求められる。これは、ニーズ調査とよばれ、主としてアンケート形式のニーズ調査と会議形式のニーズ調査に分けられる。PNカードは、アンケート形式のニーズ調査で用いられるカードで、現存するシステムの問題を、影響/結果、問題点、背景/原因、目的/ねらい、ニーズの5つに分けて調査するものである。なお、調査時は、より問題を鮮明化させるために、業務の担当者に対して、定量的に表現できる部分はその値をできる限り記入してもらうようにする。また、どこで問題が発生しているのかを明確化するために、部門や課なども記入してもらう。図VP-2-1, 2にPNカードの記入例を示す。

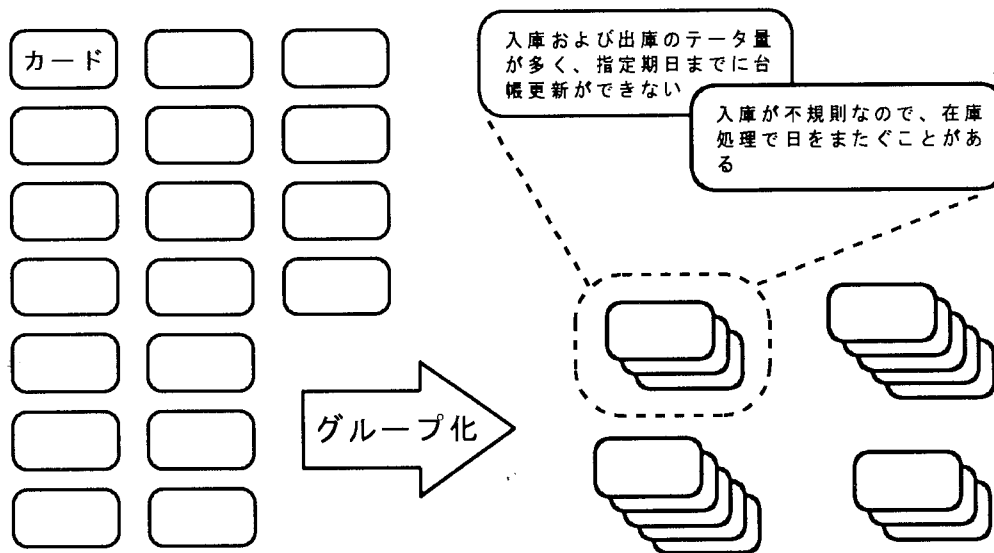
次に、記入されたPNカードをもとに分析を行う。ここでは、収集したPNカードを個々の問題点、内容の対象が似ているもの同士にまとめていく(図VP-2-3)。これをカードのグループ化といい、その後、各グループごとにサブテーマ名(表題)をつけていく(図VP-2-4)。カードのグループ化によって、問題点を幾つかのサブテーマに分割することができれば、その中からテーマに最も近い問題、若しくは最も重要であると考えられる問題の一つ取り出し、それをキーカードとして後の分析工程にわたすこととなる。



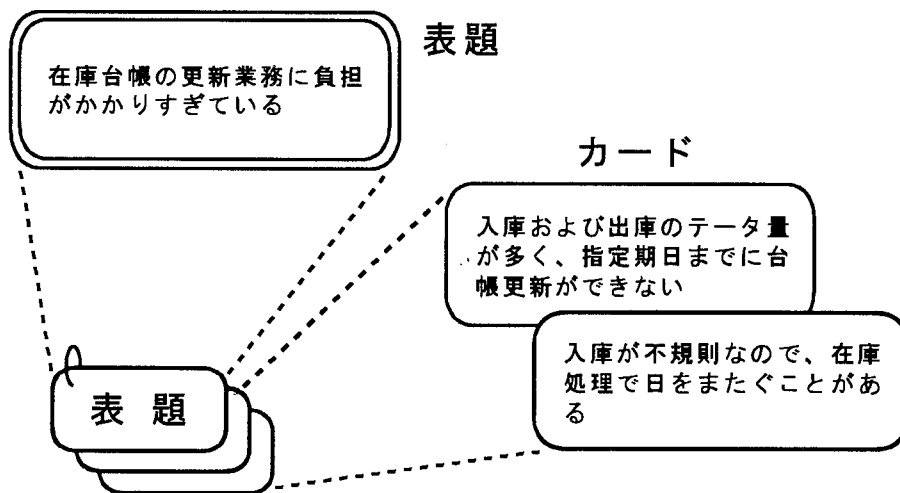
図VP-2-1 PNカードの記入例1



図VP-2-2 PNカードの記入例2



図VP-2-3 カードのグループ化



図VP-2-4 サブテーマ名の設定

<ファイル名：P 0002.HTM >

17. Q, q

18. R, r

19. S, s

20. T, t

21. U, u

22. V, v

23. W, w

24. X, x

25. Y, y

26. Z, z